

InstallShield 2026 Express Edition リリースノート

オリジナルリリース日 2026 年 7 月

はじめに	2
強化機能	2
InstallShield 2026 R1 Express Edition	2
重要な情報	3
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要	4
InstallShield Express Edition の評価	4
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する	4
InstallShield の複数エディションをインストールする	5
InstallShield の複数バージョンをインストールする	5
[アップデート通知] ビューの削除	5
[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除	5
プロジェクトのアップグレードに関するアラート	6
InstallShield Express Edition の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報	6
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更	6
文字列のローカライズに関する考慮	7
バグ修正	7
InstallShield 2026 R1 Express Edition	7
システム要件	8
InstallShield Express Edition を実行するシステム	8
ターゲット システムの要件	9
既知の問題	10
法的情報	11

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2026 Express Edition では、最新テクノロジーを手軽に使用できるようにする新しい機能、強化機能、およびバグ修正も提供されています。

強化機能

InstallShield 2026 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています。

- [InstallShield 2026 R1 Express Edition](#)

InstallShield 2026 R1 Express Edition

InstallShield 2026 R1 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています：

- [カスタム デジタル署名を構成するための新しい ISCmdBld.exe コマンドライン パラメーター](#)
- [新しい Microsoft ランタイムとデータベースの前提条件](#)

カスタム デジタル署名を構成するための新しい ISCmdBld.exe コマンドライン パラメーター

InstallShield 2026 R1 Express Edition は、新しいコマンドラインパラメーターを導入してデジタル署名を強化します。これらのコマンドライン パラメーターを使用すると、カスタム署名ツールの場所を指定し、カスタム署名ツールを構成し、ビルドが生成したファイル (setup.exe) をデジタル署名する必要があるかどうかを制御できます。これらのコマンドラインパラメーターは、リリースをビルドするときに、ISCmdBld.exe コマンドライン ツールと共に使用して、必須または目的のカスタム署名ツールを使用して、setup.exe 実行ファイルがデジタル署名されていることを確認する必要があります。導入されたコマンドライン パラメータは次の通りです：

- **-customsign_path <署名ツールへのパス>** — このパラメーターを使用して、ビルドが生成したファイル (setup.exe) にデジタル署名を行うために使用されるカスタム署名ツールの場所を指定します。
例：

```
ISCmdBld.exe -customsign_path "C:\Users\Admin\Documents\sign.bat"
```

- **-customsign_args <引数>** — このパラメーターを使用して、カスタム署名ツール構成のコマンドライン引数を指定します。たとえば、

```
IsCmdBld.exe -p "C:\InstallShield 2026 Projects\MyProject1.ism" -sign_output "Y" -customsign_path "C:\Program Files (x86)\Windows Kits\10\bin\10.0.19041.0\x64\signtool.exe" -customsign_args "sign /v /a /fd SHA256 /tr http://timestamp.digicert.com /td SHA256 [filename]"
```



重要 -sign_output "Y" を指定することは、-customsign_path および -customsign_args パラメーターを使用するための前提条件です。

[filename] 変数は、署名を行うファイルの完全パスのプレースホルダーです。ビルド時に、署名されているバイナリの完全パスに解決します。既定では、ファイル パスは引数リストの最後に追加され、カスタム署名ツールに渡されます。ハードコード化されたパスを使用する代わりに、プロジェクトで定義されているパス変数、環境変数、またはプロパティ名を使用することができます。

- **-sign_output <Y/N>** – ビルドが生成したファイル (setup.exe) をデジタル署名する必要があるかどうかを指定するには、このパラメーターを使用します。たとえば、次のコマンドラインを使用してデジタル署名を有効にできます。

```
ISCmdBld.exe -sign_output "Y"
```

これらのパラメーターは、デフォルトの InstallShield 署名メカニズムが特定の組織またはセキュリティ要件を満たしていない可能性がある CI/CD 環境での自動ビルド パイプラインにとって特に有益です。

さらに詳しい情報は、*InstallShield Express Edition* ヘルプ ライブラリの「[ISCmdBld.exe](#)」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-44198 として記録されています。

新しい Microsoft ランタイムとデータベースの前提条件

InstallShield 2026 R1 Express Edition には、**[アプリケーションデータ]** ビューの **[再配布可能ファイル]** エクスプローラーに表示される次の前提条件が追加されました:

- Microsoft Visual C++ 2017–2026 再配布可能パッケージ (x64)
- Microsoft Visual C++ 2017–2026 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft SQL Server 2025 再配布可能ファイル (x64)

これらの前提条件により、ターゲットシステムに必要な Microsoft テクノロジーが未インストールの場合にそれらをインストールできるようになり、アプリケーションの正常な実行に必要なランタイム コンポーネントが確保されます。



メモ これらの変更は ISDEV-45107 および ISDEV-44984 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2026 R1 Express Edition リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- **同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要**
- **InstallShield Express Edition の評価**
- **InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する**
- **InstallShield の複数エディションをインストールする**
- **InstallShield の複数バージョンをインストールする**
- **[アップデート通知] ビューの削除**
- **[リリース] ビューから [NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除**

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield Express Edition の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2026 Express Edition を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield Express Edition の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2026 Express Edition のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2026 Express Edition は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。



メモ FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2025 Express Edition および InstallShield 2026 Express Edition のライセンスを管理することができます。InstallShield 2025 Express Edition から InstallShield 2026 Express Edition にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 Express Edition 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Revenera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield Express Edition の評価

InstallShield Express Edition のライセンスを購入していなくても、InstallShield Express Edition をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield Express Edition は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield Express Edition がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェック アウトされたときに解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Revenera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア（同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンス サーバーを設定する必要がある場合）

- ・ スキン カスタマイズ キット
- ・ InstallScript オブジェクトのテンプレート
- ・ InstallShield サービス パック (使用可能な場合)

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2026 のどれか 1 つのエディション (Premier、Professional、または Express) を同じシステムと同時にインストールすることができます。また、InstallShield 2026 DIM Editor を、InstallShield 2026 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2026 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2026 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。InstallShield と Standalone Build を同じマシン上にインストールしてオートメーション インターフェイスを使用するには、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[Standalone Build と InstallShield を同一のマシン上にインストールする](#)」を参照して、特別な登録およびアンインストールについて考慮すべき点に留意してください。

[アップデート通知] ビューの削除

InstallShield 2021 R1 より、FlexNet Connect を統合して InstallShield を使ってアップデートを確認できる、アップデート通知機能のサポートが終了しました。この統合で使用されたマージモジュールは、今回より InstallShield にバンドルされていません。これまでにこの統合機能をご利用いただいたお客様には、以前の InstallShield インストールからマージ モジュールをコピーして、引き続き同じ機能をご利用いただくことができます。詳細については、[ここをクリックしてください](#)。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0、Windows Installer 3.1、および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2023 のすべてのエディションから、[インストールデザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J #] タブおよび [MSIエンジンを含む] オプション (並びに関連する [.NET 1.1/2 .0コア言語] と [.NET 1.1/2 .0言語パック] ダイアログボックス) が削除されました。InstallShield 2023 Express Edition 以降のビルドタスクは、古いバージョンのプロジェクトファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 Express Edition 以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2026 Express Edition にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2026 Express Edition プロジェクトと、InstallShield 2016 Express Edition 以前のバージョンから InstallShield 2026 Express Edition にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield Express Edition の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield Express Edition の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield Express Edition で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield Express Edition でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2026 Express Edition のプロジェクトは、以前のバージョンの InstallShield Express Edition で開くことができませんのでご注意ください。

InstallShield 2016 Express Edition 以前、InstallShield 12 Express Edition 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield Express Edition で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2026 Express Edition にアップグレードできます。

InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2026 Express Edition にアップグレードすることはできませんの注意してください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

すべてのプロジェクトの種類に関して、InstallShield Express Edition で作成されたインストールを実行するためにターゲット システム上で必要な最小 Windows バージョンは、Windows 7 および Windows Server 2008 R2 です。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 Express Edition から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	Message	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションは、次のバージョンの InstallShield Express Edition で解決されているカスタマーからの問題の一覧表です：

- [InstallShield 2026 R1 Express Edition](#)

InstallShield 2026 R1 Express Edition

InstallShield 2026 R1 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44981	InstallShield 2023 R2 キットにセキュリティ上の脆弱性が見つかりました。この問題により、標準ユーザーは権限の昇格 (SYSTEM レベルのアクセス) につながるアクションを実行し、ターゲット システムのセキュリティが侵害されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44875	setup.exe/tempextractpath "C:\IS_temp" コマンドを使用して、PowerShell スクリプト ファイルを抽出し、指定されたカスタムディレクトリに追加できませんでした。代わりに、これらのファイルは Windows の既定の一時ディレクトリに抽出されました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44748	Window 11 24H2 マシンで、ライセンス契約の印刷が失敗し、次のエラーメッセージが表示された問題が発生しました。 このファイルには、このアクションを実行するためのアプリが関連付けられていません。アプリをインストールするか、既にインストールされている場合は、[既定のアプリ設定] ページで関連付けを作成してください。 この問題は解決されました。
ISDEV-45170	マップされたネットワーク ドライブ（例、X:¥）から起動したときに、setup.exe がコマンドライン引数を認識および処理できなかった問題が確認されました。その結果、サイレント インストール スイッチやカスタム構成オプションなど、コマンドラインを通じて提供されたインストール パラメーターは無視されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44759	[セットアップのデザイン] ビューで、サブ機能の "表示" 設定が [表示しない] に、"アドバタイズ" 設定が [アドバタイズを許可しない] に設定されている場合、サブ機能の並べ替えを保存できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-45022	インストーラーは、インストーラー ファイルが抽出された /temp ディレクトリから前提条件を実行できませんでした。代わりに、ハードコード化されたパスから実行しようとしていました。この問題は解決されました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield Express Edition で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield Express Edition を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

- [InstallShield Express Edition を実行するシステム](#)
- [ターゲット システムの要件](#)

InstallShield Express Edition を実行するシステム

InstallShield Express Edition は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	1 GB の RAM (2 GB 推奨)
ハードディスク	1 GB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

項目	説明
オペレーティング システム	- Windows Server 2012 R2 - Windows 10 - Windows Server 2016 - Windows Server 2019 - Windows 11 - Windows Server 2022 - Windows Server 2025
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	次のバージョンの Microsoft Visual Studio を InstallShield Premier Edition または InstallShield Professional Edition に統合することができます: - Visual Studio 2012 - Visual Studio 2013 - Visual Studio 2015 - Visual Studio 2017 - Visual Studio 2019 - Visual Studio 2022 Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます: - Professional - Premium - Ultimate - Enterprise

ターゲット システムの要件

ターゲットシステムで次の最小オペレーティング システム要件を満たす必要があります:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Server 8.1

- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2026 Express Edition の既知の問題はありません。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2026 Flexera Software

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。